# 2026年度 第7回（12月）北辰テスト対策 予想問題　解答・解説

国語

## 1　問1（4点）

ア

①の直前に、バトンを落として「ごめん」と下を向く隼人と、何も言わずに見ている仲間たちの静けさが描かれている。その静けさの中で、隼人が失敗の申し訳なさに身を縮めていることを「肩を小さく見せていた」と表している。

・ア 失敗を重ね、仲間の無言の視線を感じて縮こまっている→正答
・イ 「疲れ果てて気力が残っていない」様子は本文にない
・ウ 悠斗に対してふてくされている様子は本文にない（隼人は「ごめん」と謝っている）
・エ 笑ってごまかそうと明るくふるまう様子は本文にない（「下を向いたまま」である）

採点ポイント: 「静けさ」「下を向いたまま」から、申し訳なさで縮こまる隼人を読み取れているか。

## 1　問2（4点）

イ

②の直後に「言葉でなぐさめても、あの手の震えは止まらない気がしたのだ」とある。悠斗は、ことばよりも行動で寄りそうほうがよいと考え、そのあと黙って隼人の前に立って「渡してくれ」と言っている。

・イ 言葉でなぐさめるより、行動で寄りそうほうがよいと感じた→正答
・ア 悠斗が自分も練習しなければと思った様子は本文にない
・ウ 見なかったことにして帰ろうとはしていない（このあと歩み寄っている）
・エ 隼人の努力が足りないとは思っていない

採点ポイント: 直後の一文を根拠に、悠斗の判断を読み取れているか。

## 1　問3（4点）

ア

直前で悠斗は「落としてもいい。おれが拾う。拾うから、お前は思いきり走ってくれ」と言い、隼人は「何か言いかけて、口をむすんだ」。そのあとにバトンをまっすぐ突き出したのだから、悠斗のことばに励まされ、失敗を恐れずにもう一度やってみようと心を決めたとわかる。

・ア 励まされ、挑戦する決意をした→正答
・イ 「しぶしぶ従う」様子はなく、「まっすぐ」という動作と合わない
・ウ 悠斗への対抗心は本文にない
・エ 「あきらめた」のなら、バトンを差し出さない

採点ポイント: 直前の悠斗のことばと、「口をむすんだ」「まっすぐ」という動作から心情を読み取れているか。

## 1　問4（6点）

| |
|---|
| (例) 隼人がひとりで背負い込まず、仲間みんなで支え合って走ればよい（30字） |

正答例:

・(例1) 隼人がひとりで背負い込まず、仲間みんなで支え合って走ればよい（30字）

・(例2) 失敗してもひとりのせいにせず、仲間が互いに支えるものだ（27字）

根拠: 隼人は「みんなに迷惑をかけるのが、いちばんこわかった」と言い、走るのをやめようとまでしていた。それに対し悠斗は、「落としてもいい。おれが拾う」と言い、「走るのは四人でも、バトンはひとつ」と、リレーが四人でつなぐものだと示している。

採点基準:

| 要素 | 配点内訳 | 判定基準 |
|---|---|---|
| ①「ひとり」が使えている | 1点 | 指定語必須 |
| ②「支え」が使えている | 1点 | 指定語必須 |
| ③ 失敗や責任を隼人ひとりで負わなくてよいという内容が示されている | 2点 | 「ひとりで背負い込まず」等 |
| ④ 仲間で支え合って走る（つなぐ）という内容が示されている | 1点 | 「仲間みんなで支え合って」等 |
| ⑤ 25〜35字の字数を守っている | 1点 | 逸脱は減点 |

指定語の使用順序は問わない。

## 1　問5（5点）

| |
|---|
| ウ |

隼人はバトンを落とし続けて自信を失い、辞退しようとしていた。その後、悠斗に「おれが拾う」と言われてもう一度挑戦し、最後には「みんなに迷惑をかけるのが、いちばんこわかった」と本心を打ち明けている。悠斗の「バトンはひとつ」ということばに黙ってうなずき、右手を見つめる姿には、恐れは残りつつも、仲間に支えられて本番にのぞもうとする決意がこめられている。

・ウ 恐れは残りながらも、仲間に支えられて決意を新たにしている→正答

・ア 悠斗のことばを疑っている様子は本文にない（「うなずき」とある）

・イ 悠斗に勝てるという自信は本文にない

・エ 辞退を考えなおしている様子はなく、むしろ前向きに変化している

採点ポイント: 「うなずき」「握りしめた」という動作と、それまでの心情の変化を結びつけて読めているか。

## 1　問6（5点）

| |
|---|
| イ・オ |

・ア: 「乾いた音」「ころころと跳ね」など、音や動きの描写でバトンが落ちる場面を印象的に伝えている→適切

・イ: 本文は練習の日の夕方から帰り道までを時間の流れに沿って描いており、体育祭当日からふり返る回想ではない→不適切→正答

・ウ: 「悠斗は声をかけようとして、やめた」など、悠斗の行動や思いに寄りそって場面が進んでいる→適切

・エ: 結末で「握りしめた右手」を見つめる隼人の姿を描き、気持ちの変化を印象づけている→適切

・オ: 本文は悠斗の視点で語られ、隼人の気持ちは隼人自身のことばや動作で示されている。隼人の視点から終始語られ、悠斗の考えが推測で描かれているわけではない→不適切→正答

採点ポイント: イ・オの2つを両方選んで正答（5点）。過不足があれば0点（部分点なし）。

**2　問1(1)**（2点）

| たけ |
|---|

身の丈＝その人の力や身分の程度。「身の丈に合う」は、自分の力に合っているという意味。
採点ポイント: 「じょう」などの音読みは不正解。訓読みの「たけ」。

**2　問1(2)**（2点）

| こうさく |
|---|

交錯＝いくつかのものが入りまじること。
採点ポイント: 「こうさく」。「さく」を「しゃく」と書かないこと。

**2　問1(3)**（2点）

| 世界記録 |
|---|

採点ポイント: 「記録」の「録」（かねへん）を「緑」などと書き誤らないこと。

**2　問1(4)**（2点）

| 介抱 |
|---|

介抱＝病人やけが人などの世話をすること。
採点ポイント: 同音の「解放」「開放」「快方」との書き誤りに注意。意味から「介抱」を選べているか。

**2　問2**（3点）

| ウ |
|---|

「黄色い」は、色をくわしく説明して、あとの名詞「花」を修飾している（連体修飾語）。したがって修飾されている文節は「花を」。
・ア 「庭に」は「咲いた」を修飾している
・イ 「咲いた」は「花を」を修飾する語で、「黄色い」が修飾する先ではない
・ウ 「花を」→正答
・エ 「眺めている」を修飾しているのは「毎朝」などで、「黄色い」ではない
採点ポイント: 「黄色い」→（名詞）「花」と、体言を修飾する連体修飾語の関係をつかめているか。

**2　問3**（3点）

| ウ |
|---|

単語に区切ると、「明日／は／友達／と／図書館／へ／行き／ます」。
自立語は「明日」「友達」「図書館」「行き」の4つ。付属語は助詞の「は」「と」「へ」と、助動詞の「ます」の4つ→ウ。
採点ポイント: 助動詞「ます」も付属語に数えられているか。

## 2　問4（3点）

ア・ウ・カ

未然形（「ない」をつけた形）の語尾の音で見分ける。

・ア 起きる＝起き（ない）→「イ段」の音→上一段活用 ✓

・イ 受ける＝受け（ない）→「エ段」の音→下一段活用

・ウ 借りる＝借り（ない）→「イ段」の音→上一段活用 ✓

・エ 来る＝カ行変格活用（カ変）

・オ 食べる＝食べ（ない）→「エ段」の音→下一段活用

・カ 見る＝見（ない）→「イ段」の音→上一段活用 ✓

採点ポイント: ア・ウ・カの3つを全部選んで正答（3点）。過不足があれば0点。

## 2　問5（3点）

ア

「洗顔」は「顔を洗う」と読め、上の字が動作、下の字がその対象を表す構成。

・ア 登山＝「山に登る」→同じ構成 ✓

・イ 日没＝「日が没する」→主語と述語の関係

・ウ 温暖＝似た意味の字の組み合わせ

・エ 強風＝「強い風」→上の字が下の字を修飾する関係

採点ポイント: 熟語を訓読みの語順にしてみて（顔を洗う）、上下の字の関係を判断できているか。

## 2　問6（3点）

ウ

必然＝必ずそうなること。これと反対に、たまたまそうなることを表すのが「偶然」。

・ア 当然＝そうなるのが当たり前であること（似た意味）

・イ 自然＝人の手が加わっていないこと

・ウ 偶然 ✓

・エ 突然＝だしぬけに起こること

採点ポイント: 「当然」を意味の近い語として退け、反対の意味の語を選べているか。

## 2　問7(1)（3点）

ア

空欄Ⅰは「（司会が）先生にご意見を〔Ⅰ〕たい」＝自分が先生から意見をもらうという、自分側の動作をへりくだる謙譲語が必要。

・ア 「いただき」＝「もらう」の謙譲語「いただく」で適切→正答

・イ 「くださり」＝「くれる」の尊敬語。相手の動作に使う語で、自分の動作には使えない

・ウ 「なさり」＝「する」の尊敬語。自分の動作に使うのは誤り

・エ 「おっしゃり」＝「言う」の尊敬語。自分の動作に使うのは誤り

採点ポイント: 自分の動作には謙譲語、相手（先生）の動作には尊敬語を使い分けられているか。

## 2　問7(2)（2点）

ア

山本さんが準備の時間を心配し、佐藤さんが材料の工夫で答えたあと、司会は「準備の日数が心配だという意見が出ましたので、先生にも……」と、出された意見を受けて先生の意見を聞く場を設けようとしている。

・ア 山本さんの心配を受けて、先生の意見を聞く場を設けようとしている→正答
・イ 佐藤さんの案をそのまま採用して決める発言はない
・ウ 山本さんの発言を無視してはいない（その意見を受けている）
・エ 先生の意見を聞かずに決めてはいない

採点ポイント: 司会が出された意見をどう次につなげているかを、発言から読み取れているか。

## 3　問1（4点）

イ

第2段落の冒頭に「しかし、泥の中をよく見ると、そこは生き物たちの暮らす豊かな世界である」とあり、人々は泥の中をよく見ずに、歩きにくさやにおいといった目に見える印象だけで判断していたことがわかる。最終段落でも「目に見える『かたち』だけで価値を決めていた」と述べられている。

・イ 歩きにくさやにおいなどの印象だけで判断した→正答
・ア 「調べてわかった」とは本文にない（むしろ生き物は豊富）
・ウ 渡り鳥が休むだけだと考えたとは本文にない
・エ 水をよごすと確かめられたとは本文にない（むしろ水をきれいにする）

採点ポイント: 筆者が「見かけの印象」を批判していることをつかめているか。

## 3　問2（4点）

ア

「それら」は直前の「海水に含まれる有機物（生き物の死がいやふんなど）」を指す。貝や微生物がそれを食べると、その分だけ水の中の有機物が減り、結果として水がきれいになる、という意味。

・ア 有機物を食べることで水中の有機物が減り、水がきれいになる→正答
・イ 「水の量が減る」とは述べていない
・ウ 「食べすぎて生き物が減る」とは述べていない
・エ 「食べるものが少なくなり働きが弱まる」とは述べていない

採点ポイント: 指示語「それら」の指す内容と、「取り除く」ことの結果を結びつけて読めているか。

## 3　問3（6点）

| |
|---|
| (例) 一つ一つの働きは小さくても、膨大な数が集まって水の汚れを取り除いている（35字） |

正答例:

・(例1) 一つ一つの働きは小さくても、膨大な数が集まって水の汚れを取り除いている（35字）

・(例2) 一つ一つは小さな働きでも、数えきれない数の生き物が水を浄化している（33字）

根拠: ③の直前に「一つ一つの働きは小さくても、干潟には膨大な数の生き物がいる」とある。小さな働きが膨大な数集まることで、全体では大規模な浄化になる。

採点基準:

| 要素 | 配点内訳 | 判定基準 |
|---|---|---|
| ①「一つ一つ」が使えている | 1点 | 指定語必須 |
| ②「数」が使えている | 1点 | 指定語必須 |
| ③ 一つ一つの働きは小さいという内容が示されている | 1点 | 「小さくても」等 |
| ④ 膨大な数が集まって水の汚れ（有機物）を取り除くという内容が示されている | 2点 | 「膨大な数が……取り除く」等 |
| ⑤ 25〜35字の字数を守っている | 1点 | 逸脱は減点 |

指定語の使用順序は問わない。

## 3　問4（4点）

| |
|---|
| ア |

第4段落に、渡り鳥は長い旅の途中で干潟に立ち寄り、貝や小さな魚を食べて力をたくわえてから飛び立つとある。干潟がなくなれば、その食べ物の補給の場も失われる。

・ア 干潟を食べ物の補給の場としている渡り鳥の旅を支えられなくなる→正答

・イ 「人間の生活圏に入り込み被害が出る」とは本文にない

・ウ 「鳥が増えすぎて貝が絶滅する」とは本文にない

・エ 「海の水が増えて巣が水没する」とは本文にない

採点ポイント: 第4段落の根拠（食べて力をたくわえる）を使えているか。

## 3　問5（5点）

| |
|---|
| ウ |

「適切でないもの」を選ぶ問題。

・ア: 冒頭で「ただの泥の平らな土地」という一般的なイメージを示し、そのあとで実態を述べて見方をくつがえしている→適切

・イ: 「たとえば」でアサリの例を挙げ、水をきれいにする働きを具体的に説明している→適切

・ウ: 本文に筆者自身の調査の体験談は出てこない→不適切→正答

・エ: 最後の段落で、干潟の例から「ものの価値の見方」という一般的な主張へ広げている→適切

採点ポイント: 「本文にあること」と「本文にないこと」を区別できているか。

## 3　問6（5点）

ア

筆者は、干潟が水をきれいにし、渡り鳥の休息の場にもなるなど大切な働きをしていることを述べ、最終段落で「目に見えない働きに目を向けて初めて本当の価値を知ることができる」「守るべきものも見えてくる」とまとめている。

・ア 見かけだけで価値を決めず、働きに目を向けて守る→正答
・イ 筆者は埋め立てられてきたことを問題にする立場であり、逆
・ウ 「干潟を新しくつくる必要がある」とは述べていない
・エ 「渡り鳥のためだけ」とは述べていない（水の浄化も重要な働き）

採点ポイント: 具体例（水の浄化・渡り鳥）と、最終段落の主張の両方を含む選択肢を選べているか。

## 4　問1（4点）

しかをおううちに、みちにまよいて

語中・語尾のハ行は、現代仮名遣いではワ行に直す。

・「追ふ」の「ふ」→「う」で「おう」
・「迷ひ」の「ひ」→「い」で「まよい」
・助詞「を」はそのまま

→ 「しかをおううちに、みちにまよいて」

採点ポイント: すべてひらがなで「しかをおううちに、みちにまよいて」と書けて正答。「おふ」「まよひ」（直し忘れ）は不正解。

## 4　問2（4点）

イ

この一文には主語が書かれていない。直前の「老いたる法師、出で来て、……法師、『あはれなることかな。まづ入り給へ』とて」の流れから、客を迎え入れて火をおこし粥を煮て食べさせたのは法師。猟師は「食べさせてもらう」側。

・ア 猟師 ×（食べさせてもらう側）
・イ 老いたる法師 ✓
・ウ 里の人 ×（登場しない）
・エ 鹿 ×

採点ポイント: 直前の「法師」の会話から主語がつながっていることを読み取れているか。

## 4　問3（4点）

| |
|---|
| (例) 身元も知らない自分に情けをかけてくれた（19字） |

正答例:

・(例1) 身元も知らない自分に情けをかけてくれた（19字）

・(例2) 素性も知らない自分にやさしくしてくれた（19字）

根拠: ③の直前「この法師は、わが身をば知らで、かくまで情けをかけ給ふ」。法師が、猟師の素性（命を取って世を渡る身）を知らないのに情けをかけてくれたのに対し、自分は命ある鹿を追って生きていることを恥じた。

採点基準:

| 要素 | 配点内訳 | 判定基準 |
|---|---|---|
| ① 自分のことを知らない（身元・素性を知らない）という内容 | 1点 | 「わが身をば知らで」の言い換え |
| ② 情けをかけてくれた（親切にしてくれた） | 2点 | 「情けをかけ給ふ」の言い換え |
| ③ 10〜20字の字数を守っている | 1点 | 逸脱は減点 |

## 4　問4（4点）

| |
|---|
| ウ |

④は「人の心を動かすのは、言葉よりも、思いやりのある行いである」という意味。猟師は、法師の宿と食事という行いに心を動かされ、仕事をあらためている。

・ウ 人の心を動かすのは、言葉より思いやりのある行い→正答

・ア 「灯を頼りにするな」という教えではない

・イ 「すぐれた言葉を語ることが大切」とは逆の内容

・エ 「仕事は変えるべきでない」とは述べていない（猟師は仕事をあらためている）

採点ポイント: ④の現代語訳に当たる内容を、言いかえた選択肢を選べているか。